

齋藤雅通教授 略歴と主要著作目録

1. 生年月日・出生地

1954年6月24日 神奈川県川崎市に生まれる

2. 学 歴

1973年3月 私立麻布高等学校卒業
1977年3月 京都大学経済学部経済学科卒業
1979年3月 京都大学大学院経済学研究科修士課程修了
1985年3月 京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学

3. 職 歴

1985年4月 京都大学研修員・京都府立大学短期大学部非常勤講師
1986年4月 立命館大学経営学部助教授
1995年4月 立命館大学経営学部教授（現在に至る）
1995年10月 ケルン大学（ドイツ）社会経済学部（マーケティング講座） 客員研究員（96年9月まで）
2007年10月 京都大学経済学部 非常勤講師
2011年10月 京都大学経済学部 非常勤講師
2017年9月 ベルリン工科大学（ドイツ）経済・管理学部 客員研究員（2018年3月まで）

4. 主な学内役職

1993年4月 経営学部調査委員長（現・企画担当副学部長相当）
1997年4月 経営学部主事（現・教務担当副学部長相当）
1999年4月 BKC社系研究機構副機構長（2003年3月）
2007年4月 BKC社系研究機構長（2008年3月まで）
2008年4月 経営学部長・理事・評議員（2011年3月まで）
2011年11月 大阪いばらきキャンパス（OIC）開設準備室長（2015年3月まで）
2015年4月 学長補佐・OIC地域連携室長（2017年3月まで）

5. 主な学会及び社会活動

5.1. 所属学会

日本流通学会 マーケティング史学会 日本商業学会 日本管理会計学会 日本経営学会 会計理論学会
日本会計研究学会

5.2. 社会活動

1998年10月 草津市 草津市商業活性化ビジョン策定委員会委員（99年3月まで）
2005年10月 日本流通学会 理事（現在に至る）
2006年6月 京都生活協同組合理事（2012年5月まで）
2011年6月 茨木市 茨木市地域コミュニティ基本指針検討委員会委員（12年3月まで）
2015年4月 茨木市 茨木市中心市街地活性化推進委員会委員（17年3月まで）
2015年6月 生活協同組合・大学生協京都事業連合 監事（2016年8月まで）
2016年9月 生活協同組合・大学生協関西西北陸事業連合 監事（2018年9月まで）
2018年9月 生活協同組合・大学生協事業連合 関西西北陸地区 内部監査委員（現在に至る）
2017年10月 日本流通学会 副会長（国際担当、現在に至る）

6. 研究業績

6.1. 著 書

<共編著>

1. 『グローバル競争と流通・マーケティング：流通の変容と新戦略の展開』（共編著） ミネルヴァ書房，2018年，（「巨大小売業の台頭と小売業態論の展開」67-88 ページ）。
2. 『製配販をめぐる対抗と協調 ―サプライチェーン統合の現段階―』（共編著），白桃書房，2013年，（「流通からサプライチェーン，ネットワークへ」3-9）。
3. 『現代流通入門』（共編著）有斐閣，2007年，25-40，125-143。
4. 『流通（日本のビッグインダストリー 5）』（共著）大月書店，2000年，132-156，192-229。
5. 『日本のビッグビジネス 12 三菱商事・三井物産』（共著），大月書店，1991年，6-20，52-130。

<分担執筆>

1. 『海外企業のマーケティング』（マーケティング史研究会編），同文館出版，2010年，（「ドイツにおける小売業の展開」）144-163。
2. 『ヨーロッパのトップ小売業―その史的展開―』（マーケティング史研究会編），同文館出版，2008年，（「ミグロ ―ヨーロッパ生協の雄―」）141-162。
3. 『現代流通事典』日本流通学会（編集）白桃書房，2006年，66-67，96，285。
4. 『会計学中辞典』編集委員会，青木書店，2005年，（「予算原価」「資本回転率」）。
5. 『経営学総論』佐護譽・渡辺峻（編著），文眞堂，2004年，（「マーケティング」），49-66。
6. 『マーケティング論』（第2版）保田芳昭（編）大月書店，1995年，（「経営戦略とマーケティング・マネジメント」「製品政策」「チャンネル政策」）84-117，142-156。
7. 『流通研究の現状と課題』ミネルヴァ書房，1995年9月，（「製品政策」）140-148。
8. 『現代流通政策の諸問題』同文館，1993年，（「流通環境の変化と生協の戦略」）145-163。
9. 『マーケティング論』（初版）大月書店，1992年。
10. 『生協 21 世紀への挑戦』（野村秀和・川口清史編著），大月書店，1992年，（「店舗戦略の展開」）88-95。
11. 『企業会計―実務・理論・制度』（野村秀和編著），青木書店，1992年，（「収益と費用〔I〕」，「収益と費用〔II〕」）152-170。
12. 『地球環境問題と原子力』（日本科学者会議編）1991年，リベルタ出版，90-100。
13. 『企業分析』（野村秀和編著），青木書店，1990年（「資本の性格と業界事情」，「成長性指標の吟味」）52-79。
14. 『転換期の流通経済：小売業』（糸園辰雄他編）大月書店，1989年（「生協」）。
15. 『実例による生協経営の自己診断』（野村秀和編著）日本生活協同組合連合会，1988年，58-66，105-128。
16. 『現代流通論入門』（保田芳昭・加藤義忠編）有斐閣，1988年。
17. 『国際化のなかの産業・流通・金融』法律文化社，1988年（「現代の流通・マーケティングと『情報化』」），67-77。
18. 『講座構造転換 1 国際化のなかの日本』（基礎経済科学研究所編）1987年，（共著「流通業の転換と生活文化戦略」），99-120。
19. 『転換期の生活協同組合』（野村秀和・生田靖・川口清史編），大月書店，1986年，（「消費者運動」）290-306。
20. 『21 世紀への原子力：問われる原子力政策の選択』（木原正雄他編）法律文化社，1986年，（「電力産業と原子力発電」）163-186。

6.2. 論 文

1. 「戦後期西ドイツにおける洗剤産業の国際マーケティングの展開過程 ―ヘンケル社のブランド・

- マーケティング戦略と環境戦略によせて一『立命館経営学』2019年1月(57/5, 127-146).
2. 「ヘンケル社のブランド・マーケティングの成立過程とその意義」『立命館経営学』2017年11月(56/4, 21-40).
 3. 「戦前期ドイツにおけるアメリカ型予算管理の導入と受容 —ローマンの経済計画論を中心に—」『立命館経営学』2016年12月(55/3, 55-77).
 4. 「マッキンジーの予算管理論の展開 —McKinseyを起点とする現代予算管理論への序説—」『立教経済学研究』2008年4月(61/4, 27-50).
 5. 「アメリカにおける企業予算論の形成過程—McKinseyの予算統制論によせて—」『立命館経営学』2007年5月(46/1, 21-45).
 6. 「1920年代GM社における管理会計の確立 —予算管理を中心に—」『立命館経営学』2006年9月(45/3, 93-113).
 7. 「1920-30年代GMにおける成長戦略とマーケティング管理の確立 —管理会計とマーケティング管理の統合の視点から—」『立命館経営学』2005年11月(44/4, 45-64).
 8. 「ドイツにおける都市型商業集積としてのパサーージュ, ガレリー —小売「製品」概念の外延的展開によせて—」『立命館経営学』2005年5月(44/1, 51-72).
 9. 「コープ東北サンネット事業連合の特徴—事業連合の設立・運営についての若干の論点によせて—」『生協の事業連帯の役割と推進上の課題』(くらしと協同の研究所)2005年4月(12-19).
 10. 「小売業の国際化時代における生協の業態開発」『21世紀の小売商業と生協事業』(CRI:協同組合総合研究所)2005年1月(49-65).
 11. 「小売マーケティングの特徴と調査研究の諸課題」『THE INSTORE MARKETIING JOURNAL (日本インストアマーケティング協会)』2004年10月(2/6, 12-17).
 12. 「スイスの小売市場とミグロ生協の事業展開—消費生協としての歴史・理念・現状—」関西大学『商学論集』2004年10月(49/3・4合併, 25-45).
 13. 「小売業における『製品』概念と小売業態論—小売マーケティング論体系化への一試論—」『立命館経営学』2003年1月(41/5, 33-49).
 14. 「1990年代ドイツにおける食品小売業の構造—小売業態分析の視点からの一考察—」『立命館経営学』2001年3月(39/6, 35-51).
 15. 「マイカルグループの業態戦略」『立命館経営学』1997年3月, 35 (特集 マイカル寄付講座「21世紀の流通産業」), 96-124.
 16. 「予算管理史研究の評価と課題—管理会計とマーケティング管理との比較・統合によせて—」『経済論叢』1995年12月(156/6, 15-31).
 17. 「輸入車市場の動向とメルセデス・ベンツ日本のマーケティング—グローバル・マーケティングの視点によせて—」『立命館経営学』1995年11月(34/4, 47-66).
 18. 「アメリカ巨大小売企業の多角化展開」『立命館経営学』1993年3月(31/5・6, 123-145).
 19. 「管理会計とマーケティングの統合的視点」『原価計算』1992年7月, No.305, 30-38.
 20. 「1920年代におけるマーチャンダイジング確立の意義」『立命館経営学』1988年7月(27/2, 1-27).
 21. 「電力資本の21世紀原発戦略」『賃金と社会保障』1988年7月, No.993, 41-47.
 22. 「マーチャンダイジング形成過程の一考察—デニスン社のマーケティング実践によせて—」『立命館経営学』1986年7月(25/1, 131-150).
 23. 「企業管理における販売管理確立の現代的意義について」『経済科学通信』1984年12月, No.44, 43-51.
 24. 「ウォルワース会社における予算システムの確立 —アメリカ1920年代予算の一典型—」『経済論叢』1984年7月(134/1・2, 57-83).
 25. 「ナショナル金銭登録機会社における予算システムの形成」『経済論叢』1982年10月(130/3, 54-74).
 26. 「19世紀末ナショナル金銭登録機会社における職能別部門管理の形成」『経済論叢』1981年9月

(128/3, 33-52).

27. 「医薬品産業の現状：70 年代製薬大企業の蓄積の実態」『医療経済研究会会報』1981 年 1 月, No.21, 49-54.

6.3. 調査報告・翻訳・書評等

<調査報告>

1. 『第 5 回生協組合員調査研究報告書』(CRI:協同組合総合研究所) 2004 年 2 月, 64-83.
2. 「ヨーロッパにおける非営利サービス事業組織の新展開：スイス・ドイツの事例調査報告」(共著：近藤宏一・池田伸) 立命館大学社会システム研究所『社会システム研究』2003 年 9 月, No.7, 65-90.
3. 『これからの専門店経営について考える～消費者の視点に立った堅田エキセンの活性化策～平成 13 年度中小企業連携組織調査開発等支援事業報告書』(共著：平田純一・小沢道紀) 2002 年.
4. 『和邇アルタ専門店の活性化と組合員の意識改革—平成 12 年度中小企業連携組織調査開発支援事業報告書—』(共編：平田純一) 2001 年.
5. 『宇治地域商業近代化地域計画報告書 (実施計画)』商業近代化委員会宇治地域部会 (宇治商工会議所), 1990 年 3 月.
6. 『商業近代化地域計画報告書』商業近代化委員会福知山地域部会, 1988 年.

<書評>

1. 「書評 小原博著『基礎コース マーケティング』」『流通』2001 年, No.14, 241-246.
2. 「(書評) 保田芳昭編著『現代流通メカニズムと消費者』」『流通 (日本流通学会)』1997 年 9 月, No.10.
3. 「(書評) マーケティング史研究発展への課題—近藤文男著『成り立期マーケティングの研究』(中央経済社, 1988 年) を読んで—」『立命館経営学』1990 年 3 月, 第 28 巻第 6 号, 329-338.

6.4. 学会報告その他

1. 「20 世紀ドイツのヘンケル社のブランド・マーケティングの形成過程 —国際比較・交流の視点からのドイツのマーケティングの検証—」(日本流通学会関西中四国部会第 125 回定例研究会) 2018 年 12 月 22 日.
2. 「座長解題 流通をめぐる企業間関係」(日本流通学会第 25 回全国大会 統一論題シンポジウム) 2011 年 11 月 12 日 大阪商業大学.
3. 「1920-30 年代 GM における成長戦略と管理システムの検証 —管理会計とマーケティング管理の統合の視点から—」(日本経営学会第 80 回大会自由論題報告) 2006 年 9 月 9 日 (『経営学論集』(日本経営学会報告集) 2007 年に所収).
4. 「1920 年代 GM における事業部制管理の検証 —管理会計とマーケティング管理の統合の視点から—」(会計理論学会第 19 回全国大会自由論題) 2004 年 10 月 9 日 (土) 立命館大学.

<その他>

1. 「全国生協組合員調査は転換期か?」『生活協同組合研究』(生協総研), 2019 年 7 月, Vol.522, 55-56.
2. 「(インタビュー) 私の研究紹介 生協と小売業のマーケティング：“生協らしさ” とイノベーション」『くらしと協同』(くらしと協同の研究所) 2013 年, 58-63.
3. 「まどー人口減少社会と向き合う」『三洋化成ニュース』2005 年新春, No.428.
4. 「21 世紀のマーケティング戦略 —『IT 革命』の進行と顧客満足への探求—」(立命館大学びわこ講座) 2000 年 7 月 15 日.